

PEN-International Japan の活動

日本における PEN-International の活動については、本年度で 3 年目に入り、会員数 1 万名の全に翻弄教育研究会をはじめ、全日本聾学校公聴会、全日本 PTA 連合会、全国難聴児を持つ親の会、等で機会あるごとに本学学長等から活動内容や成果等について紹介し、今や日本の聴覚障害関係者にはその意義が理解されるようになった。

PEN-International Japan の活動と関係する日本の聴覚障害教育の最近の話題は以下の 4 つである。

(1) 早期の言語獲得と大学教育

新生児聴覚スクリーニングが実地され、難聴が 0 歳で早期発見されることにより、乳幼児とその両親に対する早期教育のシステムが再構築されてきた。日本の 100 余りの聾学校のほとんどに、0 歳からの早期教育部門が設けられ、両親援助プログラムが機能している。特に、全ての乳幼児に補聴器が装用され、聴覚活用がはかれると同時に、従来の口話教育編重の言語指導法が反省され、早期から手話を併用するコミュニケーションが盛んになっている。聴覚障害者の高等教育を発展させる大元には、早期の言語獲得の在り方が深く関わることは明らかである。それ故に、日本における PEN-International の活動は、聴覚障害者学生の教育のみを対象にするのではなく、聴覚補償や情報補償に関する専門知識の啓発にも及んでいる。例えば、教育オーディオロジー研究会 (educational audiology workshop) を開催し、中国、タイ、インドネシア、フィリピンの聴覚障害教育専門家の参加を得た。

(2) 国立大学の統合・再編

全国に焼く 100 あった国立大学が統合・再編される動きにあり、また、来年 4 月からは、それらの全ての大学が独立法人化することになった。本学も筑波大学という大きな大学に統合される案が検討されたが、結局、我が国唯一の聴覚や視覚に障害がある学生のための大学として独立して存在することになった。従って、今後も PEN-International Japan の活動は筑波技術短期大学によって継続されることになる。なお、本学としては引き続き 4 年制化を目指して努力する所存。

(3) 諸大学に対する支援プログラム

我が国の聴覚障害者の高等教育への進学率が高まっているが、一般の進学率に比べ、未だに低い状況にある。また同時に、近年多くの4年制大学が聴覚障害者を受け入れるようになった。しかし、筑波技術短期大学の障害に配慮された教育体制や卒業の就職の良さについては高い評価を得ていながら、実際は一般の大学を入学志願する聴覚障害者が多い。しかも、一般の大学では障害補償や情報補償の体制が十分ではなく、入学したものの学習不適應を起こす学生も多い。そういった問題に対して筑波技術短期大学が教育支援センター的役割を担う必要がある。その意味でも、4年制大学として他の一般大学に教育研究支援できる位置づけが望まれる。PEN-Internationalで培われた教育方法等は国内の聴覚障害学生を受け入れた諸大学に対する支援プログラムとしてその効果が期待されている。

(4) アジア太平洋地域聴覚障害問題会議(2006年10月8日から11日まで)

(THE 9TH ASIA-PACIFIC CONGRESS ON DEAFNESS)が開催されることになった。これは第40回全日本聾教育研究大会と併せて開催され、国際関連の分野会と高等教育分科会は筑波技術短期大学が主催する。その9TH APCD開催の前年、2005年に、PEN-Internationalの活動プログラムは終了することになっている。私たちはPEN-Internationalの活動を2006年につなげて、9TH APCDにおいて大々的にアジア諸国にこの成果を発表しアジア全体の聴覚障害教育に貢献するよう情報を共有する計画を進めている。